

1. 平成 30 年度事業報告

(1) 会員数の動向

種 別 \ 年 度		29 年度末 (30.3.31)	30 年度末 (31.3.31)	備 考
正会員	企業会員	60	58	-2 (+1-3)
	団体会員	7	7	±0
	個人会員	297	284	-13 (+9-22)
	計	364	349	-15
賛助会員		31	32	+1
学生会員		1	1	±0 (+1-1)
合 計		396	382	-14

(2) 会議

①第 7 回定時総会

平成 30 年 5 月 22 日、メルパーク東京（東京都港区）において、正会員 242（内委任状出席 171）の出席により開催した。鮫島会長の開会挨拶に続き、林野庁木材産業課課長猪島康浩様よりご祝辞を頂戴し、その後、議長に鮫島会長を選出して、議事次第により議事が進められた。まず、平成 29 年度の事業が報告され、次いで、平成 29 年度決算（案）の審議、平成 30 年度事業計画および収支予算が説明され、了解、承認された。

②理事会

i. 第 1 回理事会

平成 30 年 4 月 27 日、商工会館（東京都千代田区）において開催し、第 7 回定時総会の議題および理事会審議事項について審議され、第 7 回定時総会の議題は、審議事項として平成 29 年度決算（案）、報告事項として平成 29 年度事業、平成 30 年度事業計画および収支予算、会長賞、第 1 回日本木材保存協会功績賞、第 29 回木材保存技術奨励賞及び第 15 回木材保存学術奨励賞授与者を発表することが承認された。

また、理事会の審議事項として、会長賞、第 1 回日本木材保存協会功績賞、第 29 回木材保存技術奨励賞および第 15 回木材保存学術奨励賞授与候補者、土壌処理防蟻剤等の性能基準およびその試験方法の改正、企業会員の加入について審議され、承認された。報告事項として、前回委員会以降の事業、木材保存剤等の変更届（5 件）、個人会員 4 名、学生会員 1 名に加入、IRG52 実行委員会の設置、平成 30 年度木材劣化診断士更新講習会の実施要項等が説明された。

ii. 第 2 回理事会

平成 30 年 9 月 7 日、商工会館（東京都千代田区）において開催し、木材保存剤等の新規認定登録（2 製品）、IRG52 の追加予算、10 年後（50 周年）に向けた中長期的課題に取り組む組織として、「木質材料の耐候性向上技術小委員会」の設置、賛助会員加入について、審議され、承認された。また、報告事項として会長および常務理事の自己の業務執行状況（定款 22 条第 3 項に規定）、前回理事会以降の事業、個人会員加入（3 名）、木材保存剤等登録更新（63 製品）、同変更申請（3 件）、同変更届（5 件）、平成 30 年度木材劣化診断士関係事業、平成 30 年度木材保存士関係事業等について説明された。

iii. 第 3 回理事会

平成 31 年 2 月 15 日、商工会館（東京都千代田区）において開催し、第 8 回定時総会の招集決議、2019 年度事業計画（案）および同収支予算（案）、木材保存剤等の新規認定登録（2 製品）、について審議され、承認された。また、報告事項として会長

および常務理事の自己の業務執行状況（前掲）、前回理事会以降の事業、個人会員加入（5名）、木材保存剤等認定登録変更届（6件）と会員数の状況、第8回定時総会・第35回年次大会の開催準備状況等について説明された。

iv. 第4回理事会

平成31年3月13日メールにて開催し、IRG52積立金を定期預金とする為の手続きとして、特定費用準備資金等取扱規程を制定する必要があることから、策定の是非、規程内容について審議され、承認された。

③正副会長会議

平成30年4月6日、8月24日、12月27日、の合計3回、協会会議室において開催され、事業の進捗状況の確認、企画運営委員会審議事項、IRG52日本大会の開催準備、協会の運営等について検討し、それぞれを担当する委員会等に必要な対策を講じる様事務局を通じて指示された。

(3) 委員会及び部会活動

①企画運営委員会

i. 第1回企画運営委員会

平成30年4月19日、協会会議室において開催し、第1回理事会へ提案する議題として、第7回定時総会の審議事項として、平成29年度決算（案）（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録）、報告事項として平成29年度事業報告、平成30年度事業計画（案）および同収支予算（案）とすることが承認された。その他の審議事項では、会長賞、功績賞、木材保存技術奨励賞、木材保存学術奨励賞の授与候補者は、受賞選考委員会の推薦者とすることが承認された。なお、報告事項として、前回委員会以降の事業、林野庁長官感謝状が下付されること、個人会員4名、学生会員1名に加入、平成30年度木材劣化診断士更新講習会実施要項等が説明された。

ii. 第2回企画運営委員会

平成30年8月29日、協会会議室において開催し、第2回理事会へ提案する議題として、今後の10年間（50周年）に向けた中長期的課題に取り組む組織として、「木質材料の耐候性向上技術小委員会」を設置することを理事会に提案することとされた。また、報告事項として前回委員会以降の事業、土壌処理防蟻剤等の性能基準およびその試験方法の取扱い、IRG52の運営費と資金調達、個人会員加入（3名）、木材保存剤等の新規認定登録（2製品）、同登録更新（63製品）、同変更申請（3件）、同変更届（5件）、平成30年度木材劣化診断士資格検定講習・試験結果について説明された。

iii. 第3回企画運営委員会

平成31年2月7日、協会会議室において開催し、第3回理事会へ提案する議題として、第8回定時総会の招集、役職員報酬・給与の改定、2019年度事業計画（案）および同収支予算（案）、功績賞、技術奨励賞、学術奨励賞の授与候補者、IRG52の積立金額の変更とすることが承認された。また、報告事項として前回委員会以降の事業、個人会員加入（4名）、木材保存剤等の新規認定登録（2製品）、同変更届（5件）、第8回定時総会および第35回年次大会の開催準備状況、第36回木材保存講座兼平成30年度木材保存士更新講習会の開催、第38回木材保存士資格検定講習・試験の実施等について説明された。

②認定委員会

平成30年4月13日、8月17日、平成31年2月4日、協会会議室において開催し、木材保存剤等の新規認定登録、登録更新、変更届等について審議され、企画運営委員会に報告するとともに、理事会に提案、報告された。また、日本木材協会規格集（2011）を改訂し、公益社団法人日本木材保存協会規格集（2018）として発刊した。

③広報（編集）委員会

会誌「木材保存」を発行する為、協会会議室において編集委員会と幹事会を合計 11 回開催し、企画・編集等を行い6回発行（奇数月）するとともに、ホームページの充実を図った。また、拡大広報委員会が平成 31 年 3 月 15 日、木材学会函館大会に併せて現地で開催され、2019 年度の活動方針等が確認された。

④木材保存士委員会

「第 36 回木材保存講座兼平成 30 年度木材保存士更新講習会」（平成 30 年 12 月大阪、東京）および「第 38 回木材保存士資格検定講習・試験」（平成 31 年 1 月東京）を開催した。委員会は、平成 31 年 3 月 12 日、協会会議室において開催し、第 38 回木材保存士の資格検定試験の合否判定およびそれぞれのアンケート結果より講習会、講習・試験の開催方法等を検討した。一方、保存講座は今年度 1 講義が終了することから後継講義は、木造建築物の耐久設計・維持管理と接合金物の腐食とし、講師の選任は事務局に一任された。

⑤木材劣化診断士委員会

平成 30 年度「木材劣化診断士研修会兼更新講習会」（平成 30 年 7 月東京、10 月京都）および「平成 30 年度木材劣化士資格検定講習・試験」（平成 30 年 8 月東京）を開催した。委員会は、平成 30 年 10 月 23 日、協会会議室において開催し、平成 30 年度木材劣化診断士資格検定試験の合否判定および次回の資格検定講習・試験等の実施を打合せた。また、国土交通省の既存住宅インスペクション講習団体に認定されていることから、インスペクションに関する講習もそれぞれで同時に実施され修了証が交付された。

⑥年次大会運営委員会

平成 30 年 10 月 16 日、協会会議室において、第 1 回委員会を開催し、第 34 回年次大会の総括を行った。また、平成 31 年 3 月 6 日協会会議室において、第 2 回委員会を開催し、第 35 回年次大会の企画、運営等について検討が行われ、各委員および事務局の役割分担、準備すべき物品等が確認された。

⑦授賞選考委員会

平成 31 年 1 月 16 日、協会事務所において開催し、第 8 回定時総会で授与する「第 2 回日本木材保存協会功績賞」、「第 30 回木材保存技術奨励賞」および「第 16 回木材保存学術奨励賞」の授与候補者の選考を行い、会長に候補者が報告された。

⑧IRG52 組織委員会

平成 30 年 7 月 9 日、協会事務所において第 2 回委員会を開催し、IRG52 の開催年月日、場所の確認、実施内容が検討された。また、2019 年 4 月 3 日協会会議室において第 3 回の委員会が開催され、検討していた開催予算（会場費、Reception 費、Banquet 費等）が承認された。また、賛助に関するお願い文章、内容については、更に検討するとされた。

⑨木材保存学改訂 4 版編集委員会

前版である改訂 3 版は発刊後、7 年程が経過したため、法律・引用資料等の内容が古くなっていることから、平成 29 年 6 月に編集委員会を開催して、執筆要領、分筆者、原稿の完成期日等、今後の進め方について、決定し、改訂作業に着手した。以後、2 回の編集委員会を開催して、進捗状況の確認、校正等を行い、平成 30 年 12 月に発刊した。

(4) 規程の改訂等

- ①日本木材保存協会規格集（2011） 土壌処理用防蟻剤等の性能基準およびその試験方法が改定されたことと未掲載の規格があることから、公益社団法人日本木材保存協会規格集（2018）として平成 30 年 12 月に発刊した。
- ②木材保存学入門改訂 3 版 発刊後、7 年程が経過し、法律・引用資料等の内容が古くなっていることから、木材保存学入門改訂 4 版として、平成 30 年 12 月に発刊した。

(5) 事業

①公益目的事業

i. 木材保存に関する調査研究事業【公1】

木材保存に関する調査研究、諸外国との情報交流を実施し、木材および木質材料の耐久性の向上を図り、その成果を社会へ提供する。

a. 木材および木質材料の耐久性に関する調査研究

木材の利用推進は、近年、非住宅分野である公共建築物、土木用資材、外構材等において取り組みがなされているが、利用促進を図るためには、木材の耐久性を確保することが重要である。このため、木材保存処理技術に関する調査研究、木材および木質材料の耐久性に関する試験を実施する外、データを収集して知見を深め、木材の劣化と物性に関する調査研究等の成果をまとめた。

b. 木造住宅の耐久性に関する調査研究

木造住宅の耐久性向上を図るため、劣化の要因を多角的に調査研究し、住宅の環境、劣化特性等を踏まえた耐久性向上の方策を検討した。また、機器を用いた劣化診断方法や維持管理方法について研究した。

c. 木材に注入した保存剤の分析方法の調査研究

木材に注入された木材保存剤の分析を行う上で、木材に含まれる成分や使用される接着剤等の影響をうける。これら物質の存在下にあっても、含有量を正しく分析できる方法について研究会を設置して研究し、成果をまとめた報告書を発行した。

d. 木材保存に関する諸外国との情報交流

国際木材保存会議（IRG）をはじめとする各国の団体との国際交流に努め、2021年度のIRG52年次大会は日本で開催することが決定したので準備を進めている。一方、日本開催の気運を盛り上げる為、IRG52の開催概要等の情報をホームページに掲載した。

ii. 木材保存に関する普及啓発および指導事業【公2】

木材保存に関する新しい知識、技術を広く社会に普及するため、普及啓発および指導事業を実施する。

a. 広報活動の充実・強化

当協会は公益社団法人としての使命を発揮していくため、会誌「木材保存」を発行しているが、さらなる充実・強化を図るため、寄稿者の開拓、内容の精査等を行っている。また、ホームページのタイムリーな更新、メールマガジンの配信、会誌「木材保存」のJ-STAGEへの掲載等を通して情報提供を充実させている。

b. 木材保存に関する専門図書の発刊

当協会が発刊している「木材保存学入門改訂3版」、「日本木材保存協会規格集（2011）」は、記載内容が古くなったことや未掲載の規定があることから、それぞれ改訂して「木材保存学入門改訂4版」、「公益社団法人日本木材保存協会規格集（2018）」を発刊した。一方、「木材保存剤ガイドライン」、「木材・木質構造の維持管理（劣化診断マニュアル、補修技術マニュアル）」等は引き続き発刊している。また、これら図書を活用して、木材保存に関する知識、技術の普及を図っている。

c. 木材保存に関する講習会・講演会の開催

1. 木材保存講座の開催

木材保存に関する新しい知識・技術の普及を図るため、「第36回木材保存講座」を平成30年12月4日エル・おおさか（大阪市中央区）、12月14日木材会館（東京都江東区）で開催し、179名が受講した。

2. 木材劣化診断研修会の開催

劣化診断に関する新しい知識・技術の習得を図るため、木材劣化診断に関する講習会を平成30年7月10日木材会館（東京都江東区）、現地実習を10月16日京都大学で開催し、65名が受講した。

d. 年次大会、公開講演会の開催

木材保存に関する技術・研究分野を発展させていくため、平成30年5月22日メルパーク東京（東京都港区）で「第34回年次大会」および「創立40周年記念公開講演会、これからの木の話しをしよう」を開催した。

e. 木材保存に関する表彰

技術者・研究者の育成を図るため、第29回木材保存技術奨励賞および第15回木材保存学術奨励賞を授与した。また、研究内容の向上を図るため、第34回年次大会における優秀なポスターに対してベストポスター賞および優秀ポスター賞、優秀な口頭発表に対して、ベストプレゼンテーション賞を授与、永年、協会の発展に貢献された方に対して、第1回日本木材保存協会功績賞を授与した。

更に、創立40周年を記念して協会への功績が顕著な方、理事・監事を永年務められた方々に、日本木材保存協会会長賞を授与した。また、協会への功績が顕著であった前会長に林野庁長官感謝が下付された。

iii. 適正な木材保存処理の推進事業【公3】

適正な木材保存処理の推進を図るため、木材保存に関する規格の整備、木材保存剤等の認定、技術者の養成等を行う。

a. 木材保存剤等の認定・更新

木材保存剤等の認定申請製品に係る性能および安全性等に基づき、新たに優良製品として5製品を認定登録した。また、108製品の登録を更新した。

b. 木材保存士、木材劣化診断士等木材保存に関する資格の登録

i. 木材保存士の登録・育成・更新

「第38回木材保存士資格検定講習・試験」を平成31年1月17、18日、日本教育会館（東京都千代田区）で実施し、木材保存士として新たに37名を登録した。また、適正な木材保存処理技術の習得を図るため、「平成30年度木材保存士更新講習会」を平成30年12月4日エル・おおさか（大阪府中央区）、12月14日木材会館（東京都江東区）において開催、178名が登録更新を行った。

ii. 木材劣化診断士の登録・育成・更新

「平成30年度木材劣化診断士資格検定講習・試験」を平成30年8月28日、日本教育会館（東京都千代田区）で実施し、木材劣化診断士として新たに20名を登録した。また、保存処理木材をはじめとする種々の木質材料の劣化診断技術の習得、適正な維持管理を推進するため、「平成30年度木材劣化診断士更新講習会」を平成30年7月10日木材会館（東京都江東区）と10月16日京都大学で開催、62名が登録更新を行った。さらに、インスペクション講習認定団体に認定されていることから、更に講習内容を充実させて、検定講習、更新講習会に併設して開催、診断技術の向上と資格者の育成を図った。

②収益事業

i. 木材保存に関する性能試験等の受託事業【収1】

a. 保存処理木材の実用化研究会の受託

会員等の依頼により木材保存処理技術の実用化のための性能基準、製造基準、製品検査基準等を策定するため3件の研究会を設置して、これを実施し完了した。

b. 木材保存剤等の性能試験の受託

会員等の依頼により木材保存剤の開発等に係る性能試験を2製品実施し完了した。

ii. 日本木材保存剤工業会の事務受託

日本木材保存剤工業会の総務・庶務業務（文書の受領、発送等）を実施した。

③当協会の組織の強化・充実、活動の発展

当協会の運営にあたり、各種委員会および部会、研究会を引き続き設置して、協会活動の発展に努めた。また、会員の新規加入を図る等、組織の強化・充実を図った。

以上